



# ハートフルなんぶ

2026. 4月号 vol. 325

長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川 1201 番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

## 4月の 新刊案内



- 『恋するブタハナ』額賀 滯／著 双葉社 <Fヌ>  
 『教場Ω』長岡 弘樹／著 小学館 <Fナ>  
 『のほほん人生』原 宏一／著 双葉社 <Fハ>  
 『ライフログ分析官』我孫子 武丸／著 光文社 <Fア>  
 『夜明けのハントレス』河崎 秋子／著 文藝春秋 <Fカ>  
 『涯しない影に』赤川 次郎／著 KADOKAWA <Fア>  
 『浅草観音裏小路』坂井 希久子／著 講談社 <Fサ>  
 『DANGER』村山 由佳／著 新潮社 <Fム>  
 『言問ラブソディ』小野寺 史宜／著 講談社 <Fオ>  
 『外の世界の話を聞かせて』江國 香織／著 集英社 <Fエ>  
 『友だち以上恋人未満の人工知能』川原 繁人／著 KADOKAWA <007カ>  
 『葬式坊主なむなむ日記』松谷 真純／著 三五館シンシャ <185マ>  
 『警備のプロが教える防災の新常識』倭文 浩樹／著 きずな出版 <369シ>  
 『ぬか漬けとアレンジ発酵料理』寺本 りえ子／著 KADOKAWA <596テ>  
 『『100万回生きたねこ』のナゾを解く』宮崎 哲弥／著 筑摩書房 <726ミ>  
 『パリ文学風景』ドミニク・ブリス／著 原書房 <293フ>  
 『関係のよくない親を看取るということ』岡山 容子／[著] ディスカヴァー・トゥエンティワン <490オ>  
 『散財さんのお金の増やし方』横川 楓／著 三笠書房 <591ヨ>  
 『ごろんごろんニャー』岩合 光昭／著 クレヴィス <645イ>  
 『外国語を独学で極める技術』大山 祐亮／[著] ディスカヴァー・トゥエンティワン <807オ>

## 4月のテーマ 「偉人」

- 『偉人たちの人生図鑑』山崎 圭一／監修 宝島社 <281イ>  
 『音楽家の食卓』野田 浩資／著 誠文堂新光社 <762ノ>  
 『キリンを作った男』永井 隆／著 プレジデント社 <588ナ>  
 『Woman's Style 100』ヤマザキ マリ／監修 昭文社 <281ウ>  
 『音読したい偉人たちの最期のことば』齋藤 孝／著 KADOKAWA <281サ>  
 『日本史の偉人の虚像を暴く』本郷 和人／著 宝島社 <281ホ>  
 『宇宙飛行士、「ホーキング博士の宇宙」を旅する』若田 光一／著 日本実業出版社 <440ワ>  
 『天才伊能忠敬の地図を作る驚異の技術』齋藤 勝裕／著 シーアンドアール研究所 <448サ>  
 『宮沢賢治の地学実習』柴山 元彦／著 創元社 <450シ>  
 『牧野富太郎の植物学』田中 伸幸 NHK 出版 <470タ>  
 『ムツゴロウさんの最後のどうぶつ回顧録』畑 正憲／著 集英社 <480ハ>  
 『わが<アホなる>人生』小林 晃／著 石風社 <498コ>  
 『軽自動車を作った男』永井 隆／著 プレジデント社 <537ナ>

2026年本屋大賞ノミネート作  
(4/9発表予定)

- ★『暁星』 湊 かなえ／著
- ★『イン・ザ・メガチャーチ』 朝井 リョウ／著
- ★『エピクロスの処方箋』 夏川 草介／著
- ★『さよならジャバウォック』 伊坂 幸太郎／著
- ★『探偵小石は恋しない』 森 バジル／著
- ★『ありか』 瀬尾 まいこ／著
- ★『失われた貌』 櫻田 智也／著
- ★『殺し屋の営業術』 野宮 有／著
- ★『熟柿』 佐藤 正午／著
- ★『PRIZE』 村山 由佳／著

Essay

「ゾウザン、ショウザン」

「地元の偉人、さくまぞうざん」とPCのキイを打っていくと、ゾウザンの変換候補は造山しか出てこない、ショウザンだと象山が出る。

佐久間象山について多くの長野県民はゾウザンと呼ぶのではないか。県歌「信濃の国」五番では「ぞうざんさくませんせいも」と歌われる。県はこの読み方について「地元松代で昔から親しまれている」と理由をホームページに記す。生誕地に隣接するのはゾウザン神社、地元の店舗名もゾウザン読みようだ。象が鼻を伸ばし横たわる姿、地下壕でも有名なこの山もゾウザン。これが彼の名前(雅号)の由来で読みはゾウザンなのだと思っていた。

ところが高橋宏氏の論考「佐久間象山雅号呼称の決め手」(信州大学教養学部紀要第29号)によると、本人は勘違いをしていたらしい。

元来「城山」や「竹山」と呼ばれていたこの山の麓にある寺号が「象山恵明寺」、由来は開山した僧に縁の深い、実は中国泉州にある寺の山号であるのに、その額を見た25歳の象山先生はそれを知らず裏山の真の名前だと推察した。そして「人々がそれに気づいていないようだから差し支えなからう」と考え雅号に拝借した、と自ら明らかにしている。しかし、である。象の形の山に因んだからといってゾウザンでなくあえてショウザンと読ませたかった。ここが一癖ありげな象山先生ばい、、、「反切法(二漢字を子音と母音に分けて一漢字の発音を表す)」により読み方を示した書簡があり、これによりショウザン読みが有力となるという高橋氏の考察だ。漢文も頑張って読んで、この説はかなり納得でき楽しめた。が、それはそれ、私はこれからもゾウザンと読むだろう。

寄稿：とど



南部図書館  
開館カレンダー



2026年4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

2026年5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

開館時間：午前10時～午後6時

■は休館日です